

[評者]
上野文昭
米国内科学会 (ACP) 日本支部・支部長



ジェネラリストのための 内科外来マニュアル

第2版

金城光代, 金城紀与史, 岸田直樹 編

● A5変型 頁736 2017年4月

定価: 本体5,400円+税

[ISBN978-4-260-02806-6] 医学書院刊

医学書籍を選ぶとき、私はまずタイトルに興味を惹かれるかを優先する。当然である。次に著者が信頼できる医師と周知していれば、既にこの時点で評価は高い。本書は、近年ますます重要性を増しているジェネラリスト内科医のためのマニュアルであり、優れたリウマチ内科医であると同時に日本のジェネラリスト内科医のリーダーとして敬愛している金城光代氏(沖縄県立中部病院総合内科/リウマチ膠原病科)とそのグループが編集・執筆された書籍となれば、もう期待感は最高潮である。

医師の財産となるような記載

前半は初診外来での症候ごとに、考えておくべき疾患がCommon/Criticalの別にリストされ、医師の臨床能力を駆使した診断アプローチが手際よく展開されている。検査や治療に関する記載は、最小限にとどめられている。序文にもあるように、検査や治療と異なり、症候学のアプローチは時代遅れになることがほとんど

ないため、本書の記載の大部分は、いったん学べばこれからの医師の一生の財産となることは間違いない。

後半は診断がついた後の継続外来の進め方や、健診への対処の仕方などであり、内科日常診療の90%以上が網羅されている。わが国では、健診異常者はスペシャリストに紹介されることが多い。その場合でも何を目的に紹介し、どのようなことが行われるかを理解する上で役立つ内容が記載されている。

これからの時代に読んでおくべき一冊

今、世界ではValue-Based Medicineの波が押し寄せている。近い将来のパラダイムシフトにより、ジェネラリスト内科医が医療の主役となると確信している。供給過剰気味のスペシャリストは、超専門診療への特化またはプライマリ・ケアも同時に行う専門医へと二極化して行くと思われる。ジェネラリストはもちろんのこと、プライマリ・ケアを担うスペシャリストにこそ、本書を熟読されることをお薦めしたい。